

京都市基本計画審議会 第7回融合委員会
摘 録

日 時：平成22年10月26日（火）14：00～15：30

会 場：京都ホテルオークラ 4階 暁雲

出席者：

- ・ 秋月謙吾（京都大学大学院公共政策連携研究部教授）
- ・ 浅岡美恵（NPO法人気候ネットワーク代表，弁護士）
- ・ 乾亨（立命館大学産業社会学部教授）
- ・ 上村多恵子（詩人，京南倉庫株式会社代表取締役社長）
- ・ 尾池和夫（財団法人国際高等研究所所長，前京都大学総長）
- ・ 塚口博司（立命館大学理工学部都市システム工学科教授）
- ・ 松山大耕（未来の担い手・若者会議U35議長，妙心寺塔頭・退蔵院副住職）
- ◎ 宗田好史（次代の左京まちづくり会議座長，京都府立大学大学院生命環境科学研究科（環境科学専攻）准教授）
- ・ 森洋一（社団法人京都府医師会会長）

以上9名

◎…委員長

（50音順，敬称略）

1 開会

事務局（柴山総合企画局政策企画室長）

ただ今より、第7回融合委員会を始めさせていただきます。

本委員会は公開とし、報道関係者の席を設けるとともに、市民の方々にも傍聴いただけるようにしているので、御了承いただきたい。

本日は、事前に、立石副会長、平井副委員長、梶田委員、新川委員、西岡会員、堀場委員から欠席との御連絡を頂戴している。

議題に移る前に、本日お配りしている資料の確認をさせていただきます。

- ・ 次第、名簿、配席図
 - ・ 【資料1】基本計画の名称等について（案）
 - ・ 【資料2】基本計画第2次案のパブリック・コメント（総括）
 - ・ 【資料2-1】基本計画第2次案に対する市会からの意見等
 - ・ 【資料2-2】基本計画第2次案に対する関係行政機関からの意見等
 - ・ 【資料3】パブリック・コメントに係る未来の担い手・若者会議U35の活動報告
 - ・ 【資料4】基本計画第2次案の修正案
 - ・ 【資料5】基本計画答申案
 - ・ 【資料6】基本計画審議会第2回総会開催案
- それでは、以降の進行は宗田委員長にお願いする。

宗田委員長

さっそく、第7回融合委員会を開催させていただきます。本日が、最後の融合委員会の予定である。

では、はじめに基本計画の名称を検討して参りたい。

去る9月30日に、尾池会長及び平井融合委員会副委員長と御一緒に、基本計画の名称の検討と、入賞作品の審査を行った。

本日は、基本計画の名称（案）を御用意した。

それでは、事務局から説明をお願いする。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

お配りしている資料1「基本計画の名称等について（案）」を御覧いただきたい。

先ほど、宗田委員長からお話しいただいたとおり、9月30日に名称審査会を開催していただき、名称案の検討と入賞作品案の選定をしていただいた。

「未来」、「市民力」、「つなぐ」といった今回の基本計画を表すキーワードを基に作品を選定いただき、優秀賞の作品を基に、尾池会長に若干表現を変更いただいて名称案「はばたけ未来へ！京プラン」を作成いただいた。

この案で本日御決定いただければ、来週開催される第2回総会において入賞者を表彰する予定としている。

資料の2枚目以降はすべての応募作品の一覧であり、131名の方から155件の御応募をいただいた。

宗田委員長

ただ今説明いただいた点について、御意見を頂戴したい。

名称審査会では、尾池会長に見事にさばっていただき、最大限候補作品を生かす形で、名称案を「はばたけ未来へ！ 京プラン」としている。

何か御意見はあるだろうか。

——異議なし——

宗田委員長

それでは、基本計画の名称については、原案どおりとさせていただきます。

宗田委員長

続いて、第2次案に対するパブリック・コメント等の総括を行う。

9月6日から27日までの22日間、未来の担い手・若者会議U35の支援を受け、基本計画第2次案に対するパブリック・コメントを実施した。

また、別途、京都市会や関係行政機関からも意見を頂戴しており、答申案をまとめるに当たって参考とするために一覧にまとめている。

この間、特に未来の担い手・若者会議U35の方々に御尽力いただき、中身の濃いパブリック・コメントをいただいたことに改めて感謝申し上げます。

それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

資料2「京都市基本計画第2次案のパブリック・コメント（総括）」、資料2-1「基本計画第2次案に対する市会からの意見等」、資料2-2「基本計画第2次案に対する関係行政機関からの意見等」に基づいて御説明する。

まず、資料2を御覧いただきたい。

パブリック・コメントの実施期間は、9月6日から27日までの22日間であった。未来の担い手・若者会議U35の御支援もいただき、郵送、FAX、メール等のほか、パブコメ集箱の設置、出前パブコメの実施など、積極的な意見募集によって、568名から964件の御意見をいただき、第1次案に比べ、多くの方から御意見が寄せられた。

御意見をいただいた方々の年齢を見ても20代、30代の方からの御意見が多くなっており、未来の担い手・若者会議U35の御尽力の結果であると思う。

意見の内訳としては、京都の未来像「日本の心を感じる国際都市・京都」、重点戦略「歴史・文化都市創生戦略」に多くの御意見をいただいている。京都は歴史を感じさせる都市であり続けてほしいとの御意見を多くいただいていることが、その要因と思われる。

政策の体系については、特に「歩くまち」に多くの御意見をいただいております。歩くまちをつくるための京都市の取組のほか、市バス・地下鉄、自転車マナーなどに多くの御意見をいただいた。また、「道と緑」、「景観」などまちづくりに関する御意見も多かった。このほか、「環境」、「産業・商業」、「観光」などの京都市が力を入れている分野に様々な御意見をいただいたと理解している。

今回のパブリック・コメントの特徴を3ページ上段にまとめている。いただいた御意見のうち、答申案に10件の御意見を反映させていただき、954件の御意見を審議の参考とさせていただいた。

今回のパブリック・コメントでは、京都の未来像・重点戦略に対する御意見が多かったほか、政策の体系に推進施策が加わるなど、具体的な方策が第2次案から追加されたことを受け、記載内容への具体的な御意見が多かったこと、また、新たに加えられた真のワーク・ライフ・バランスに係る京都の未来像や重点戦略への御意見が多かったことなどが特徴として挙げられる。

以下、計画項目ごとに、答申案に反映させていただいた御意見と審議の参考とさせていただいた御意見に分けて記載している。

次に、資料2-1に市会からの御意見等をまとめている。これまでから市会に対しては節目、節目で報告しており、この資料は、特に第2次案に対しての御意見をまとめたものである。様々な項目について御意見をいただいている。答申案に反映したものもあるため、後ほど詳しく御説明申し上げる。

続いて、資料2-2に関係行政機関からの御意見等をまとめている。関係行政機関とは、近畿地方整備局、近畿運輸局、京都府、京都府警察本部、京都都市圏自治体ネットワーク会議であり、京都府、京都府警察本部からいただいた御意見を資料にまとめている。これらについても、後ほど答申案の資料の中で御説明申し上げる。

宗田委員長

続いて、未来の担い手・若者会議U35を代表して、議長を務めておられる松山委員から活動の報告をしていただく。

松山委員

資料3「基本計画第2次案のパブリック・コメントに係る「未来の担い手・若者会議U35」の活動報告と今後について」を御覧いただきたい。

まず、出前パブコメについては、資料にあるとおり8箇所で開催したほか、同時期に、パブコメ巣箱を主要駅、商業施設等24箇所に設置した。

その結果、今回のパブリック・コメントで意見を頂戴した568名のうち、全体の80%強に当たる460名はU35の活動により御意見を頂戴した。

具体的な御意見の内容は、資料2に記載している。

そして、資料の裏面に、担当したU35のメンバーが今回の結果を総括しているが、総論として、当初、やろうとしていたことはほぼ達成できたと思う。

今後の取組については、パブリック・コメントとそれに対する考え方が資料2にまとめられているが、通常であれば、この資料をホームページに掲載して終わりとなるが、それではフィードバックしたとは言い難いため、どのように回答したのかをお返しできる仕組みを考えている。具体的には、来年1月に第2回目のシンポジウムの開催を予定しており、現段階では仮称だが、「自分たちが動けば、未来が変わる～未来の担い手フェスティバル～」と題し、皆さんに新しい基本計画を周知していただくようなイベントを考えている。そのような場でいただいたパブリック・コメントをお返しするほか、出前パブコメで訪れた個所で改めて周知するなど、1月頃まで継続して活動したい。

宗田委員長

さて、パブリック・コメントと並行して、第6回融合委員会で乾委員及び塚口委員か

ら御提案があった「各区基本計画策定委員会」との意見交換会を、去る10月1日に開催したので、概要を報告する。

当日は、乾委員のほか、北区、下京区、東山区、西京区の座長、議長とともに左京区の座長でもある私が出席し、区の策定状況や市基本計画第2次案に対する意見などについて、意見交換を行った。

例えば、区の策定状況については、東山区では、観光客が集中し、安全等の問題で住民の皆様に犠牲を強いていること、下京区では、京都駅付近を「京都の玄関間」ととらえ、単なる通過点としないこと、などの報告があった。

東山区は山折委員が座長を務めておられるが、山折委員らしく、観光だけではなく、信仰の場として巡礼のように京都を回るべきとおっしゃっておられた。四条通は八坂神社と松尾大社を結ぶ重要な道であり、そのようなことにも配慮すべき、など将来的なまちづくりに向けた御提案もいただいたところである。

また、市基本計画と区基本計画の整合性を持たせるためにもう少し工夫が必要ではないかとの意見があり、特に市民生活、コミュニティ政策にかかわる部分で幅の広い、突っ込んだ議論が必要、などの御意見が出された。

更に、10年先の課題かもしれないが、技術的に改善すべきこと、各区の議論を市基本計画にもっと生かすことができる仕組みなどについて検討すべきといった意見があった。

結論としては、市基本計画と各区基本計画の方向性のイメージについて大まかに共有され、互いに齟齬のないことが確認され、有意義なものになったと考えている。

残念ながら、現時点で各区基本計画のすべてがそろっているわけではないため、市基本計画を手に取りられる方に、改めてまとめて報告するような資料を作ることなども検討すべきとの御意見が出された。

この会の開催を御提案いただいた塚口委員、乾委員から御意見があれば願います。

塚口委員

会合を持つことが望ましいとの提案をしておきながら、私自身が参加できずお詫び申し上げます。先ほど宗田委員長がおっしゃったように、このような市基本計画と区基本計画を眺める機会を設けたことが大切である。何らかのまとめがあれば結構かと思う。改めてお礼申し上げます。

乾委員

なかなか面白い場だったと思う。やはり区で語られている全市的課題があり、それをしっかりと議論する場が必要であることは、その場におられる方が感じたことだと思う。

次の10年に向けてはそのような議論が必要で、とりわけ東山区の問題などは東山区だけで解決できる問題ではないことを実感した。

宗田委員長

私からも補足させていただくと、融合委員会には、共汗部会の正副部会長に御参加いただいているが、各区でも、それぞれ策定委員が20名程度おられる。東山区の交通問題や、小学校の統廃合など、市計画審議会委員と区計画の策定委員の全員が集まって意見交換する場などがあってもよかったかと思う。

それでは、パブリック・コメント全般について、御意見を頂戴したい。

資料2はなかなか読みごたえのある資料である。私は、観光、歩くまち、景観、環境などの分野で京都市の委員を務めているが、この10年で市民意見がずいぶん積極的な、好意的に推進する方向に変わってきたことを実感しており、市民を挙げて取り組んでいることが伝わってくるように思う。

———（御意見なし）———

宗田委員長

続いて、基本計画の答申案を検討して参りたい。

パブリック・コメント等を踏まえ、第2次案を修正し、答申案を作成している。

パブリック・コメント以降、各共汗部会は開催されていないため、政策の体系については、各部会長及び副部会長に御確認いただいている。

それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

資料4「基本計画第2次案の修正案」、資料5「基本計画答申案」について御説明する。

資料5は、資料4で説明する大きな修正や用語の統一などを行った答申案全体の資料である。これまでの計画案と体裁が変わっており、シンプルな形となっているが、市会で御審議いただく議案として、イラストなどの装飾的なものを取り除いた体裁に仕上げている。

また、資料4に示した修正が全体の中でどのような形になっているかについては、資料5の該当ページを記載しているので、適宜御参照いただきたい。

それでは、資料4に基づき、主な修正点を御説明する。

まず、「計画の位置付け」では、名称審査の結果を受けて計画の名称を修正している。

次に、市会からの御意見として、人口減少への危機感を持たれており、その対策が求められているほか、融合委員会においても森委員から人口減少への対策の必要性についての御意見をいただいていた。これらを踏まえ、「計画の背景」に「人口減少を食い止める方策の展開」に関する文言を追加しているほか、第2次案で記載していた「人口減少を見通したパラダイムシフト」については、この文言追加を踏まえ、「少子高齢化を見通したパラダイムシフト」としている。

次に、「京都の未来像の図」については、「6つの未来像がそれぞれ関係するならば、線が足りていないのでは」との御意見を踏まえ、すべての未来像を結ぶ形に直線を追加している。

次に、「人口減少は産業の活性化などに大きな影響がある。人口減少対策に分かりやすい方法で取り組むべき」との御意見を踏まえ、未来像「真のワーク・ライフ・バランスを実現するまち・京都」の中で「真のワーク・ライフ・バランスが実現できる、ひとびとをひきつけるまちをめざす」と「ひとびとをひきつける」を追加したほか、重点戦略「子どもを共に育む戦略」についても「安心して子どもを生み、楽しく育てることができ」と「生み」を追加している。

次に、政策分野「青少年の成長と参加」については、京都府警察本部からの「少年非行の未然防止や立ち直り支援の強化について総合的に取り組んでいくことについて盛り

込んでほしい」との御意見を踏まえ、現状・課題、推進施策に少年非行への対応を追加している。

次に、政策分野「地域福祉」については、「現状・課題」において、「だれもが住み慣れた地域で安心して自立した生活を送ることができる」といった観点を加えるべき」とのパブリック・コメントの御意見を踏まえ、現状・課題を修正している。

次に、「共汗」という言葉の整理について、この言葉に対しては、パブリック・コメントにおいて「普遍性がない言葉であり使うべきではない」との御意見と、「共汗型計画というネーミングに賛同」との御意見が出されている。

これらを踏まえ、「共汗」は、これからの京都の都市経営の理念として、市民と市役所が、自治の精神のもと、責任と行動を共有するなかで、知恵と力を合わせ、未来の京都をつくっていくことを端的に示すものとして使用しているため、原則として「共汗型計画」など象徴的な部分で使用する。一方で、政策の体系などの本文中では、「共汗」と同義の「協働」も多く使用していることから、一般用語となった「協働」に統一したいと考えている。

次に、政策分野「高齢者福祉」については、「第2次案の文言では健康な高齢者が減っているように思われる」との御意見を踏まえ、現状・課題を介護保険制度の成長を示すための表現に修正している。

次に、政策分野「保健衛生・医療」については、「動物の殺処分を減らしてほしい」とのパブリック・コメントの御意見を踏まえ、推進施策に家庭動物に関する表現を追加している。

次に、政策分野「土地利用と都市機能配置」については、「崇仁地区についても記載すべき」とのパブリック・コメントの御意見を踏まえ、推進施策に崇仁地域に関する表現を追加している。

次に、「行政経営の大綱」については、まず、「山間部において、地デジや携帯電話、ブロードバンドの受発信環境の整備を」とのパブリック・コメントの御意見を踏まえ、基本方針2に、市政に限定した情報だけでなく、市民の求める情報が得やすくなるようにとの表現を追加している。

更に、第2次案を御審議いただいた段階で、財政改革有識者会議からの提言を踏まえて財政に関する記述を修正すると申し上げていたとおり、10月初めに提言をいただいたため、その内容を反映している。

具体的には、まず基本理念を「職員の専門性を追求し、かつ持続可能な財政を構築するために、財政構造の着実な改革を果たす」との表現に修正するとともに、基本方針を「時代の変化等をつねに捉えながら、公民の役割分担を絶えず見直し、最適な市民サービスを提供する。また、低成長・少子高齢化時代にあっても、市民の安心・安全な生活をしっかりと支え、将来にわたり必要な施策、事業を実施していくため、これまでの財政構造のあり方を根本的に見直す。そのために、京都の未来に責任をもち、将来の世代に負担を先送りしないという観点から市債残高を減少させ、コンパクトで機動的であるとともに、景気変動等にも耐えうる足腰の強い財政の確立を図る。また、持続可能な行財政を確立することは、都市の成長のための戦略と財政の構造改革が一体となって初めて可能となるものであり、本計画に掲げる政策の推進と財政構造改革を車の両輪のごとく取り組んでいく。」と修正している。

そのほか、財政有識者会議からの提言のエッセンスを盛り込んだ形で、各項目を修正

している。

資料5は、これらの修正を反映した答申案であり、参考として、委員名簿、審議会開催経過、各政策分野の指標と目標値の例、各政策分野に関連する分野別計画のほか、各部会における議論の過程で大切にした価値観（キーワード）についてもこちらに記載している。

説明は以上である。

尾池会長

未来像の対角線について、追加線だけ太くなっているのは強調のためであり、最終的には同じ太さとなるとの理解でよいか。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

そのとおりである。

松山委員

勉強不足で申し訳ないが、崇仁地域とはどこなのか。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

下京区、京都駅の東側の地域である。

松山委員

岡崎地域は分かるのだが、例えば山ノ内地域には太秦天神側駅周辺と追加した方が、場所が分かりやすいのではないか。

宗田委員長

表現については、おっしゃるとおり、行政区や例えば京都駅東部などを追加するなど工夫した方が分かりやすいかと思う。

事務局（西村総合企画局長）

岡崎はほぼ左京区だが、東山区などにもまたがっている。行政区名を併記するなど、工夫したい。

上村委員

第2次案の修正案について、行政経営の大綱のうち、財政に係る部分について、京都市の財政改革有識者会議からの提言を反映とあるが、第2次案にはあった「歴史都市である京都市の都市特性を踏まえて」という部分など、今回削除されたが残しておいた方がよいのではと思う部分もある。どのような提言の内容を反映したのかをもう少し教えていただきたい。

また、資料5は答申案であるため、基本計画第2次案と編集方法が異なるかと思うが、できれば計画の位置付けのところに、第2次案に記載していた「計画の構成」や「総合計画の体系」の図表があった方が分かりやすいのではないか。あえて外しているのは、これらをすべて分かっている方々向けの資料だからだろうか。

宗田委員長

これらの図表を入れても差し支えはないだろうか。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

内部的な整理になってしまうが、最終的に市会に御議決いただいて策定するため、議決に関係ない部分は答申案から外す形としている。最終的に市民の方にお知らせするための冊子の形にする場合は、御指摘の内容を加えることもあるが、市会に御議決いただく部分を抜粋した形を答申案とした。

先ほどの財政改革有識者会議からの提言に関する御指摘について、二重線で消した個所である京都市の都市特性に関する記載は、財政改革有識者会議でも同様の認識で御議論いただいております、この部分を全く意識しない議論ではなく、これらを踏まえて更に具体的な内容を御提言いただいております。

提言では具体的な御指摘もいただいているが、基本方針でそのエッセンスを記載する形とし、実施計画の中で具体化していくための大きな方針を記載している。

上村委員

行財政の確立について、その他の個所については原案どおりでよいが、「歴史都市である京都市の都市特性を踏まえて」という部分は行財政を考えるうえでも大事な京都の特性でもあり、残すべきではないか。

更に、基本方針3(3)の「京都府に対しても、財源の確保を要望していく」のくだりは、地域主権を謳っている本計画では、あまり強調しなくてよいのではないか。

宗田委員長

御指摘の歴史都市である特性を踏まえるとの部分については、御検討いただけるだろうか。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

検討のうえ、改めて委員長に御相談させていただきたい。

宗田委員長

第2パラグラフに「そのために、京都の未来に責任を持ち」とあるが、そこに入れることも一案だと思う。

乾委員

資料4の人口減少と少子高齢化について、人口減少で大変な中、どう軟着陸するかが問題で、この2点を「人口減少を食い止めるための方策の展開」と「少子高齢化を見通したパラダイムシフト」に分けた場合、人口減少対策を進めることと、少子高齢化が進むこととの間にある矛盾をどう説明すればよいのか。

人口減少を食い止める方策はできる限り展開するものの、やむなく人口減少が進むのでパラダイムシフトが必要と考えるのであればよいかと思うが、この二つが併記される状況とはどのような状況なのか。

宗田委員長

現状そのままであると思う。今後しばらく人口減少は続くが、とりあえず人口減少を食い止めるための政策を進めよという方もいれば、人口減少を見据えしっかりとパラダイムシフトしながら政策を進めよという方もいる。それを両論併記する必要があるのではないか。

森委員

私としては、併記していただいてありがたい。人口減少は合計特殊出生率が2.08以上に増えない限り避けられない。急激な人口減少でなく、ゆるやかな人口減少にしていくことで世の中が対応できるという意味で、人口減少を食い止めるという表現でよいのではないか。

宗田委員長

今から取り組んで30年後に効果が出るという考え方かと思う。

由木副市長

この部分は市内でも議論があった部分である。人口減少は自然減と社会減があるが、この食い止める方策には、社会減も食い止めることを考えている。京都は大学生の人口が多いが、卒業後に残らない。それをできるだけ残す、又は1回出ても帰ってきていただくことなど、こういった社会増も含めての対策だと思っている。

また、少子高齢化については、若い人がたくさん来てくれて社会増が進んでも、高齢者の絶対数がどんどん増える事は確実であることと、若いお母さんが少なくなることによる子どもの人数の減少も避けられない。この部分はもうひとつの避けられない構造転換部分であり、これらを踏まえて併記している。

乾委員

若い人の減少を食い止めることは生き残りのための戦略としてよくわかる。だが、「人口減少を見通したパラダイムシフト」を「少子高齢化を見通したパラダイムシフト」に修正する必要があるのか。少子高齢化を見通したパラダイムシフトはこれまでから言われてきたことだが、それを人口減少の中で軟着陸させることが必要である。人口減少は大きく避けられないとの認識があるのであれば、「人口減少を見通した」のままでもよいのではないか。

宗田委員長

人口減少が2回出てきてもよいのではないかとの御指摘である。

市会からの意見を受けての修正だと思うが、人口減少を書くことについての反対意見があるのだろうか。

事務局（西村総合企画局長）

基本的には審議会の議論で整理していただければと思う。ただ、基本計画として、今後30年を見通したうえでの今後10年との考え方もあるかと思う。

今後10年、国の人口推計によると京都は約4～5万人の減少が見込まれているが、人口減少対策をとった場合、どれだけ食い止められるかという問題だと思う。この問題を、絶対数の側面で見ると、少子高齢化などの人口構成の側面から見るかについては、御議論いただければと思う。

市会からの御意見は、人口減少というマイナスの視点だけでは考えず、他都市に比べても京都が魅力ある都市になって、経済活性化、税収増など、ポジティブな面からの政策を盛り込んでほしいとの御意見である。

宗田委員長

京都の大学生は13万人程度であり、増やせるのはせいぜい数千人である。5万人減少と言うのは非常に大きな数字である。そこを軽く見てしまうと、誤ったスローガン、重要な問題から目をそらすことにもなりかねない。政策としては、コンパクトシティを進める方もおられるので、事実は事実として見たうえで書くべきとの意見もある。本日御欠席だが、平井副委員長と打合せをした際、経済界では生産年齢人口の減少を重要なものと受け止めており、外国人を受け入れないのであれば、女性に働いてもらうために、保育所を自前で経営することなども考えて雇用を確保することなどに取り組んでおられると聞いた。

この辺は経済界も認識して取り組んでいることであり、これだけ経済界、市民も見ていることを計画ではっきり書けないのはいかがなものか。

もっと色々なところに人口減少を食い止める方策があったものを削って本日の資料としているわけではあるが、任せるとのことなので議論を続けたい。

ちなみに本日の資料は、森委員だけでなく、西岡委員にも御相談し、御意見をいただいて作成したものである。

浅岡副会長

人口が増えることは期待できない中、減少を抑えつつ、それでも能力を開発することで同じくらいの活動量を確保できるようにすることが目標だと思う。

その趣旨が伝わるように、客観的に避けられない現象として、パラダイムシフトにある人口減少を残すと何か問題があるのだろうか。

宗田委員長

我々に下駄を預けられたので、どちらかを選択すればよいかと思う。

浅岡副会長

「パラダイムシフトが必要」ということが重要で、大きな分岐点であることは事実で、その認識をはっきり伝えてはと思う。

塚口委員

どうしてもここしばらくは人口が減少する。それを少しでも食い止める方策を考え、社会増、自然増、両方をにらんだ政策を考えるということであり、私は原案でよいと思う。人口減少の大きな原因、背景は少子高齢化であり、人口減少を食い止める方策に取り組みながらその背景にある少子高齢化を見通したパラダイムシフトを行うことはおか

しくないのではないか。切り離れたものでなく、流れを見れば、人口減少を強調することも一つだが、「少子高齢化を見通したパラダイムシフト」としてもよいと思う。

松山委員

日本全体のマスとしては、確かに人口は減少するのだろうが、今後、日本で最後まで人口が増加し続けるであろう都道府県は滋賀県と言われている。山一つ越えれば人口が最後まで増加する県がある横で、あきらめてはならないと思う。

宗田委員長

滋賀県の人口が減少するのも、それほど先のことではないのでは。

松山委員

人口減少の度合いが日本で最も少ない県が山一つ越えた隣にあるということで、京都に人を引っ張ってくるべきではないだろうか。

宗田委員長

山一つ越えれば、との点では、京都府の北部では、今後人口が50%まで減少するのではとの見方もある。

松山委員

人口増加の可能性がある中で、人口減少を所与の条件とするのは未来がないのではないかな。

上村委員

松山委員の御意見に近いが、少子高齢化の結果として人口減少が起きてくる。そうならば、人口減少と少子高齢化の順番が逆ではないか。

人口減少を食い止める方策は、都市間競争や、国の外国人労働者の受入れ移民の受け入れ等の検討結果にも影響される。食い止める方策には色々な考え方があるが、少子高齢化は避けられない現象としてすでに起きていることである。

人口減少も含めた議論もパラダイムシフトであり、先に少子高齢化を持ってきてはどうか。個人的には世界文化自由都市を標榜する京都は、色々な国の方が活動を展開するようなことをしながら減少を食い止めるべきであると思う。

しかし、そういう方策が必要であるということはしっかりと記載するべきである。

森委員

数年前までは少子高齢化が主要な課題であったが、人口減少が現実となったことを踏まえて記載しているのだと思う。少子高齢化が先に来た方が流れとしては分かりやすいが、人口減少が現実となったことを踏まえて先に記載しているのではないかな。

滋賀県で増えていることを踏まえるべきとの意見もあったが、京都だけが増えていればいいのかとの配慮も必要である。社会増減は施策として動かすことも可能だが、根本のところをしっかりと見つめるべきである。

宗田委員長

人口減少を食い止める方策と、少子高齢化を入れ替えるとどのような不都合があるだろうか。

事務局（西村総合企画局長）

この章のタイトルが人口減少と少子高齢化であることから、今の順番がよいのではないかという気はする。乾委員がおっしゃったように本来は「人口減少・少子高齢化時代を見通したパラダイムシフト」とするべきかもしれないが、頑張れば人口が減少しないこともあるかもしれないため原案とした。順番は原案の形の方が落ち着くかとは思いますが、審議会の議論でお決めいただきたい。

森委員御指摘のとおり、右肩下がりの人口を右上がりにするのは難しいが、減少をなだらかにするとの認識である。

宗田委員長

認識はそうだが、人口が右上がりになるという印象を与えないようにするべきである。

事務局（西村総合企画局長）

人口減少を食い止める策が書いてある真下に「人口減少を見通した」とあることに違和感を覚えたため、「少子高齢化」としたのが原案である。

乾委員

私自身は、すでに事前に了承した内容であるためお任せするが、少子高齢化はすでに覚悟していることで、京都市もそのことを視野に入れて政策を進めておられると思う。

ただし、人口減少は、単に少子高齢化を引き起こすだけの問題でなく、宗田委員長も言われているコンパクトシティにもある居住地の問題など、劇的な問題を引き起こしかねない問題だと思っている。

重要なのは、実際に人口減少が起こった場合に、それに耐えられる政策立案をしていくといった覚悟があるということだと思う。「少子高齢化と人口減少を見通したパラダイムシフト」という妥協的な言葉でもいいが、人口減少が起こったときにどうするかということ宣言しておくほうがいいと感じているということだ。

ただ、今日の議論をお聞きしていると、これまでも議論が行われてきたことや京都だけは生き残るべきなどのさまざまな御意見があることも分かったので、最終的にはお任せしたい。

宗田委員長

乾委員に同感で、人口減少に対応することが重要であり、その際の都市基盤やまちづくりなど、行政や経済界などで真剣に取り組んでいかなければならない問題になるだろう。それらのことを分かったうえで、原案のままをしたい。

浅岡副会長

9, 10 ページにかけて記載されている都市経営の理念、京都の未来像は、「わたしたち京都市民は」との主語で書かれている。それは画期的だが、それを保障する言葉が欠

けているように思う。

各論ですべてに書くことは大変なため、都市経営の理念の第2パラグラフ「自主的に実現への道筋を見出す」との部分で、「自主的に」ではなく、「わたしたち京都市民は、参加と協働で実現への道筋を見出す」とし、行政が市民の参加を保障することが裏に読めるようにしてはどうか。

宗田委員長

よい修正だと思う。一步進んだ表現であると思う。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

この部分については、新川委員が「自主的に」を加えることを提案された。この文言がなければ、市が作った未来像に市民が汗をかくように思われるため、「自主的に」と付け加えられたことがその趣旨だったかと思う。

宗田委員長

新川委員に確認が必要かもしれないが、より一步進んで理念のタイトルと合わせることでバランスは取れるかと思う。

浅岡副会長

「自主的に」を重ねてもよいが、「参加と協働」を加えた場合に語呂が悪いため、「自主的に」を取ってはどうか。「自主的に」がボランティアと思われないうちの趣旨での提案である。市民が主体的に取り組んでも政策決定への参加の保障が必要で、それを担保するために「参加と協働」としてはどうかとの趣旨である。

宗田委員長

新川委員に確認を取っていただき、そのように修正したい。

秋月委員

「共汗」については、タイトルなどには生きるが、文中からは一掃されるということで理解している。

また、脚注について、本文中に「※」等のサインがなく、下に注釈が記載されているので、どこの説明なのかが探さなければわからないため不親切だと思う。

また、政策分野「景観」の現状・課題に「林相」という言葉があるが、これは硬すぎる言葉だと思う。最終的には任せるが、分かりやすい言葉になるよう注意していただきたい。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

「共汗」については、政策分野「農林業」の推進施策のみ、分野別計画を踏まえた言葉としているが、それ以外についてはすべて置き換える。

宗田委員長

本日頂戴した御意見を踏まえて答申案を整え、総会に諮って参りたい。

修正内容については、一通り整理したが、行政経営の大綱の部分については、一任をお願いしたい。

最後に、基本計画審議会第2回総会と答申予定について事務局から説明をお願いする。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

資料6について、総会では、これまでの活動経過を報告し、答申案を御審議いただいたうえで、名称の表彰式を行いたい。

その後、答申を11月4日に行う予定である。

宗田委員長

本日の議題は以上である。

最後の融合委員会であるため、尾池会長から、本日及びこれまでの議論を総括して、一言頂戴したい。

尾池会長

今日も白熱した議論であり、ポイントがはっきりしたと思う。

この融合委員会の15名の委員の方々に70名の審議会委員のインターフェース、またパブリック・コメントで市民のインターフェースを務めていただいで議論が深まったと思う。これからの10年は、参加と協働に大きな意味があると思う。この10年でそれを実現すれば嬉しい。御協力にお礼申し上げます。

宗田委員長

続いて、京都市からの感想として、由木副市長から一言頂戴したい。

由木副市長

本当にお礼申し上げます。熱心に議論していただき、スリリングな議論で出席して勉強になる審議会であった。

御提案いただいた6つの未来像をすべて結ぶとダイヤモンドに見える。このダイヤを大切にこれからの10年間の市政を運営したい。また、未来の担い手・若者会議U35の方に御参加いただき、若々しいものとなった。

これを議会に諮り、実行計画を策定して実行に移していくが、引き続き皆様に御指導を賜りたい。

宗田委員長

先ほど松山委員からお話があったとおり、審議会の活動は終了するが、未来の担い手・若者会議U35の方には引き続き活動いただく。1月のシンポジウム等で皆様と語り合う機会があればと思う。

それではこれで融合委員会を終了する。お忙しい中、御出席いただきお礼申し上げます。

<了>